

## 地域ニーズに応じた質の高い高齢者労力を活用する仕組み

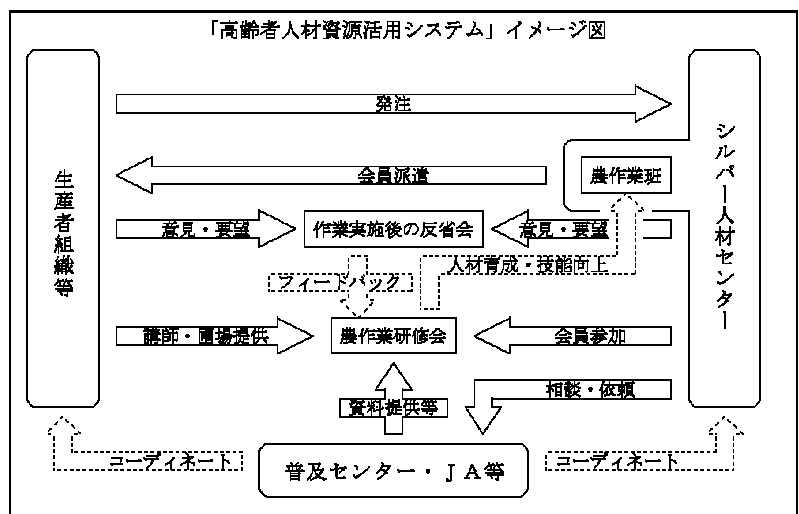
農業・園芸総合研究所

### 1 取り上げた理由

本県農業の中心的な担い手の高齢化や担い手を補完する労力の不足が顕著となっている一方、生きがいや働きがいを求めてシルバー人材センターに登録するシルバー会員はここ10年間で大幅に増加していることから、地域ニーズに応じた質の高い高齢者労力を農業に活用する仕組み「高齢者人材資源活用システム」を検討したので、参考資料とする。

### 2 参考資料

- 1) 雇用者（生産者）のシルバー人材センターに対する評価は、農作業研修を行っていないM町認定農業者では「利用手続きが楽」、「利用しやすい料金」という利用のしやすさの評価が高く、「急な作業依頼でも対応」、「人材が豊富」、「安心して仕事を任せられる」、「日時変更等の融通が利く」という利用の自由度や技術力等の評価が低い。シルバー会員への農作業研修を実施しているY県S市梨出荷組合員では「日時変更等の融通が利く」、「急な作業依頼でも対応」の利用の自由度の評価が良くなっており、これは、農作業に対応できるシルバー会員の人数的な確保が進んでいることにより、急な作業依頼や変更にも対応できるようになっているものと考えられ、農作業研修が人材の確保・育成に有効なことが伺える（図1）。
- 2) シルバー人材センター側では、農作業の受注が年々高まっているが、農作業の経験が無く不安を抱くシルバー会員も多いことから、十分な人材の確保には至っていない。シルバー会員に対する農作業研修を行うことで、農作業へ不安を持つ研修参加者の半数以上が不安が軽減したと回答し、実際に就業延べ人数の伸びている作業も多く、農作業研修が農作業技術の習得だけでなく農作業への不安解消にも効果がある（図2）。
- 3) シルバー会員への農作業研修に対する受講者の評価としては、いずれの作業でも「説明のわかりやすさ」（1：分かり難い～5：分かり易い）、「作業の難しさ」（1：難しい～5：簡単）、「体力的つらさ」（1：つらい～5：楽）、「当該作業の受注希望」（1：受注したくない～5：受注したい）とも好評価であり、さらに、現地圃場で農場主を講師にした研修でも、農園研場内で農園研職員による研修と同等の評価を得られたことから、地域段階での農作業研修会でも十分効果がある（図3）。
- 4) 以上のことから、地域で雇用ニーズの多い農作業を中心に、シルバー人材センターとJA生産者部会等の生産者組織が連携して農作業研修を開催することで、農作業に対応できる人材の確保・育成と円滑な農業労働力の需給が行えるような体制づくりが有効である。



### 3 利活用の留意点

- 1) 地域でのシルバー人材センターと生産者組織の連携による農作業研修会を開催できる体制整備に向けては、両者の調整、資料提供等について、普及センター、JA等の支援が必要がある。

(問い合わせ先：農業・園芸総合研究所情報経営部 電話022-383-8120)

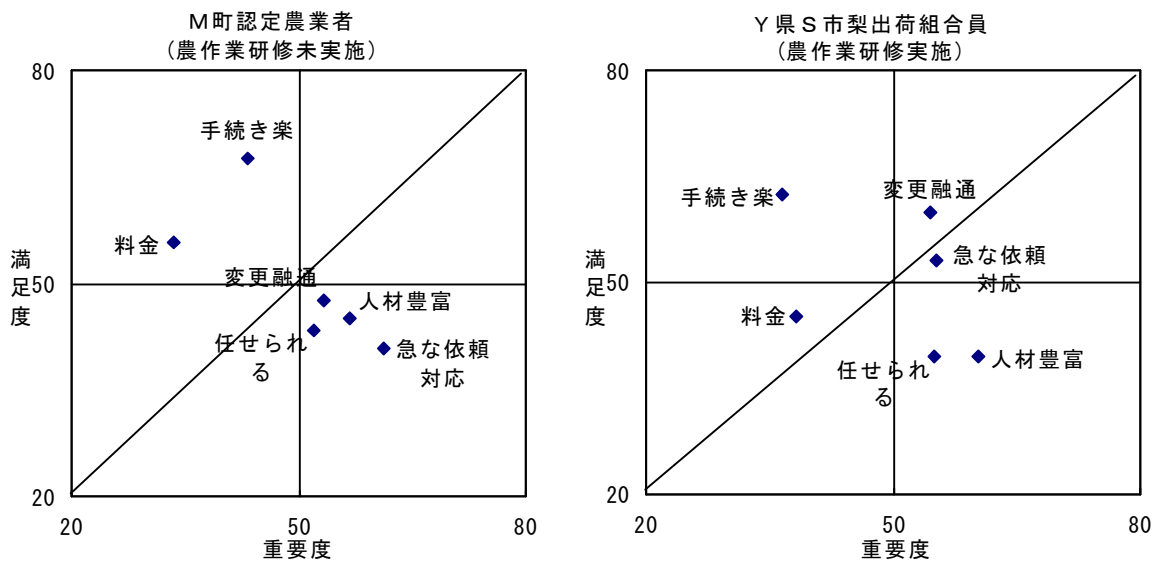
### 4 背景となった主要な試験研究

- 1) 研究課題名及び研究期間

高齢者向け農作業指標を利用した高齢者人材資源活用システムの構築（平成20～22年度）

高齢者人材資源が農業に参入できる要件の解明と高齢者向け作業指標の作成（平成17～19年度）

- 2) 参考データ



※座標(20,20)から座標(80,80)への対角線より右下側の項目(重要度が高く満足度が低い項目)が評価の低い(改善すべき)項目

図1 シルバー人材センターに対する利用農家の満足度調査(CS分析)

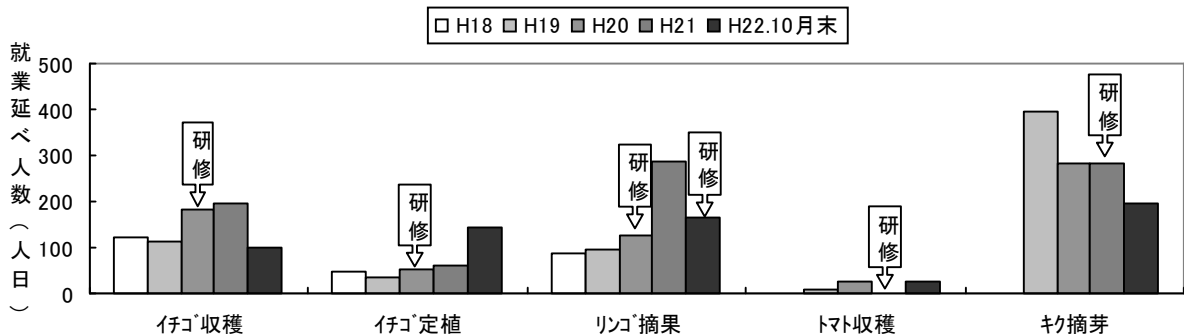


図2 シルバー会員に対する農作業研修実施後の就業実績の変化

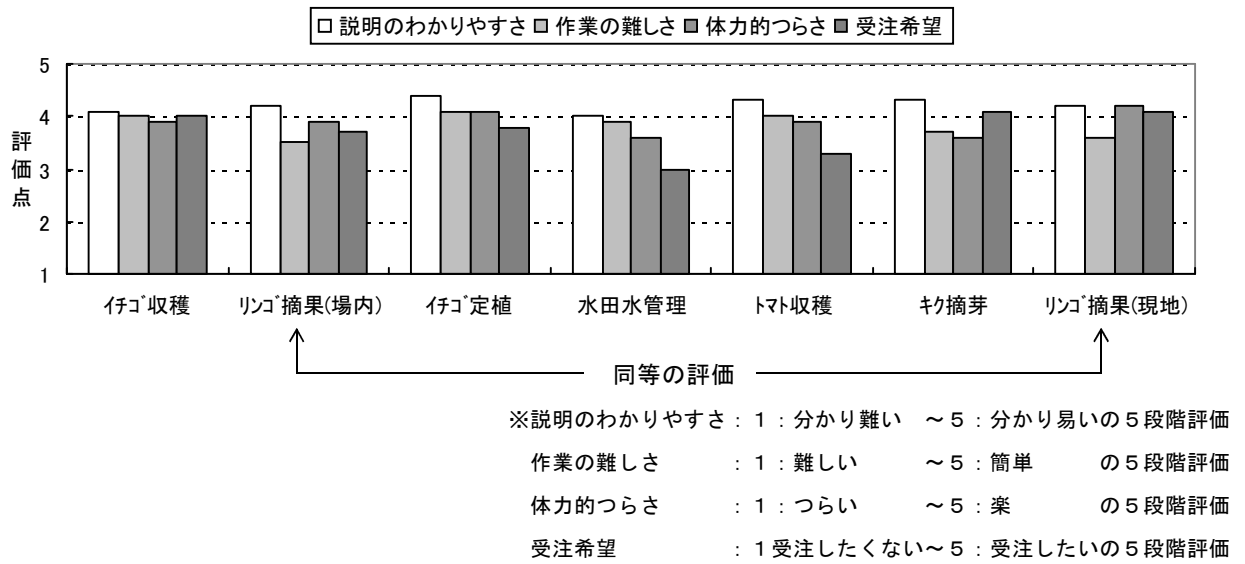


図3 シルバー会員に対する農作業研修の評価(各項目5段階評価の平均値)

- 3) 発表論文等 なし
- 4) 共同研究機関 なし